

## 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 24 年度

事業所番号	2771601909		
法人名	特定非営利活動法人 吹田市民NPO		
事業所名	グループホーム「あい」		
所在地	大阪府吹田市南高浜町22番7号		
自己評価作成日	平成 24年 8月 4日	評価結果市町村受理日	平成 24年 10月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=2771601909-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=2771601909-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪府中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 24年 9月 8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

こじんまりとしたホームで2階建て(階段)というハンデはありますが、その雰囲気が入居者・家族の方々に家庭的な印象をもっていたいただいています。また、ホームの前には緑の豊かなお宮さんの公園があり、そこでの散歩やおしゃべり、自治会の催しへの参加ができ、ゆったりした暮らしぶりになっています。そして、認知症について啓発活動を地域・行政と協同して進めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「“ゆっくり、一緒に楽しく”心地よい居場所をつくりあげる家(ホーム)です」の理念を掲げ、地域に密着した事業運営を展開しているグループホームです。家庭的な環境と、地域住民との交流の下で、利用者の自由な生活を支えています。毎年事業方針を作成し、具体的な目標や予算を職員・家族・関係団体に配布し、開かれた運営が実践されています。ホームのすぐ前には神社があり、境内で開催される地域行事への参加や境内で遊ぶ子ども達の笑い声、季節の移り変わりや自然を感じることができる周辺環境は、ホームの自慢の一つで、利用者・家族にも喜んでもらっています。「日々の暮らしを豊かなものに」との思いをホーム長をはじめ職員全員で実践していることが、利用者の生き生きとした表情からうかがえるホームです。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『“ゆっくり、一緒に楽しく”心地よい居場所をつくりあげる家(ホーム)です。』を理念として、あらゆる機会に理念を冒頭に記載し、その理念に沿った議論なり実践を心がけ、理念は勤務に就くにあたって基本的姿勢のひとつであるということを常に意識するようにしている。 ホームの理念を理解し、自分なりに実践に移せるよう努めている。	「“ゆっくり、一緒に楽しく”心地よい居場所をつくりあげる家(ホーム)です。」を理念と定め、「入居者の表情は介護者の鏡」「入居者の笑顔と満足を求めて」を職員の生きがいとして明示しています。理念は玄関に掲示し、パンフレットや年度事業方針に掲載しています。定例のスタッフミーティング会議では活発な議論が交わされており、理念の実践に向けて、家族や地域の方と共に日常の支援に繋がっています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム前の公園に来られる地域の方々との交流や散歩途中での挨拶など、日常的な近所づきあいを大切にしている。自治会の催しがあれば、見学するなどしている。また、地域運営推進会議で、情報交換・共有・コミュニケーションを心がけている。	ホーム周辺は住宅街となっており、ホームの向かいには、公園、神社、自治会館等があり、利用者は住民や子どもたちと日常的に交流があります。地域の一員として自治会の催し物に参加し、職員は積極的に出店等に参加して楽しんでいます。ボランティア、家族の方と一緒に大掃除をしたり、中学生の体験学習、研修生の受け入れ、保育園児との交流等も図っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>引き続き、地域ふれあいサロンの継続した取り組み、認知症サポーター養成講座の開催やキャラバンメイトとしての活動など地域での様々な催物において啓発活動に努めている。</p> <p>また、地域のお祭りなどに参加(出店)し、パネルや資料を用意し、市民の方々へ認知症の理解を深めてもらえるよう努めている。</p>		
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回、ホームの前の自治会館を利用させていただき開催している。入居者の暮らしぶり(認知症・薬・排泄など)についてプライバシーに配慮しつつ報告し、アイデアをいただくこともある。スタッフには議事録で報告し、会議で出された意見や要望を積極的にホーム運営に反映した取り組みを進めている。</p>	<p>「地域運営推進会議」は自治会会長、地域包括支援センター職員、地区福祉委員、ボランティア連絡会、介護支援サポーター、家族会、市社会福祉協議会職員、医師等の参加のもと2ヶ月ごとに開催しています。会議ではホームの活動状況、課題、企画事業、利用者の健康状態や暮らしぶり、職員の体制等報告し意見交換しています。防犯やボランティアの取り組みに対するアドバイスをもらったりしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	吹田市・介護保険課や包括支援センター等と随時意見交換・情報共有に努めている。 市内のグループホームで構成する連絡会を通じて常に行政との連携を促進し、情報の共有に努めている。	市の担当課や地域包括支援センター、市社会福祉協議会と連携を取り合っています。介護相談員も受け入れています。事業所連絡会の部会で、事業所間の職員相互研修が実施されるようになり、事業所間の交流を通して、サービスの向上に活かしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保のため、夜勤帯など必要最小限の施錠にとどめる努力をしている。日中は基本的に玄関の施錠をせず、扉が開くとベルが鳴るようにして、見守りなど必要に応じてスタッフが寄り添うことができるようにしている。身体拘束についての研修を行い、常に理念の具現化・尊厳の保持第一のケアに努めている。	日中、玄関は開錠しています。利用者は職員の見守りにより、自由に外出しています。身体拘束については、内部研修を行い、尊厳の保持について学習し、実践しています。施設での虐待等のニュースは、報道記事をタイムリーに回覧し、倫理について確認する機会にしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修会への参加、内部研修の実施などで虐待の防止に努めている。また、スタッフ間で虐待などについて情報交換し、お互いに防止意識を持つよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の参加や内部研修で学び、制度の学習とその実践をスタッフ間で話し合い、同時に家族会でその利用などを啓発している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はもとより、制度の改定やホームの現状を定期的に報告し、意見交換に努めている。2012年度の介護保険法改正に伴い、契約書・重要事項説明書について一部変更した点について説明をしたうえで契約をしていただいた。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し、意見交換に努めるとともに文書等での報告や年度方針を配布している。 家族の訪問時には日常の様子を報告し意見を聞く機会をつくるようにしている。	年2回の家族会を開催し、全員参加のもと、意見交換や事業方針の説明等を行っています。家族会の協力での大掃除も毎年実施しています。毎月の請求書送付の際には、利用者の生活を伝えるコメントをつけています。また、ホームでの生活状況が伝わる写真入りの『「あい」通信』を発行し、家族に送付しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングでの集団的な意見交換、年2回行う個別面談で意見や要望を把握し、ホーム運営に反映させている。 年度方針を作成する際には、スタッフと意見交換をしながらおこなっている。	月1回のミーティングは、ケアや運営についての話し合い、研修の時間です。非常勤職員も含めほぼ全員の参加があります。年度方針の作成には、職員も意見を出し、全員で作成しています。1日3回の勤務交代時には、引き継ぎマニュアルに沿って申し送りを行い、職員で考えた目標も確認しています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	OJTによる自己評価をもとに、個別面談を行い、労働環境に対する要望把握に努め、目標を持って処遇改善に努めている。また、個別の相談にも応じるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修参加や職員個々の要望に応じて内部研修を実施するなどしてケアの習熟能力の向上に努めている。また、介護福祉士資格取得の奨励も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	吹田市介護保険事業者連絡会、吹田市社会福祉協議会が組織する施設連絡会に参加し、その取り組みに積極的に参加するようにしている。また、グループホーム間での、相互研修を計画し、今後も継続して実施していくようにしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や関係者の協力でセンター方式でその人らしい暮らしとは何かを探りながら計画作りを行っている。スタッフ間で質問・相談して信頼関係作りに努め、ホーム長や管理者に相談するなどして一人で抱え込まないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケア計画の作成には家族との意見交換を行うようにしている。介護計画や日常の様子など来所の際に家族に相談・報告などをしてコミュニケーションをとるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	長期的な目標とともに短期的には何が必要なのか、本人の思いを見極め、家族と意見交換する中でサービスの内容を見極めた対応に努めている。家族の来所時に些細な変化などを聞くなどして対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常で不自由なところはサポートしつつ、本人の意思・積極性を尊重し、無理のない範囲で家事等の参加を促す工夫、努力をしている。それぞれの入居者に合わせた声かけ・介助で促す、料理のコツや掃除について教えてもらう等。入居者がスタッフの肩たたきをする場面や時に身の上話をするなど日ごろから何気ないコミュニケーションを取って関係を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	随時電話で連絡を取ったり、請求書送付の際にはスタッフからのコメントを入れるようにしている。 家族が気軽に来所できるような雰囲気作りを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時には以前に住んでいた地域に出かけたり、近所の人たちの訪問を持続させることに努めている。家族・知人がホームに来られた時、気を使わないでゆっくりしてもらえるよう心がけている。また、訪ねてくれる家族や友人の皆さんが入居者おひとりだけでなく、入居者皆さんに声をかけてくださるのもうれしい。	以前住んでいた地域に行ったり、入居前に住んでいた自宅の庭を見に行ったりする利用者がいます。入居前から交流があった近所の方や、友人が気軽に訪問もしています。ふれあいサロンで馴染みの人に会うことも楽しみのひとつになっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で、各入居者の個性や思考を考慮して入居者同士のコミュニケーション、話題を工夫し、サポートに努めている。 入居者同士でトラブルになることもあるが、すぐにスタッフが仲裁にはいるのではなく、時には見守ることもある。入居者同士「この人」という意識があり互いに気遣いあう場面が見られる。スタッフが間に入り、話題を変えたり、提案したりとみんなが話しやすい環境を作るようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された先の施設と情報交換を行えるように心がけている。時には家族の方との季節の便りのやり取りもある。今後も相談などできる事があれば行いたい。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族、知人からその人に関する様々な情報を収集し、共有する中でその人の思いや過去の生活を把握し、日常での会話などから、その入居者自身の思いや、暮らし方への要望や意向等を聞き、希望を把握できるよう心がけている。 コミュニケーションが困難になってきた入居者に対しても、入浴の場面や寝る前などスタッフと1対1でゆっくりと話をすると普段にはないおしゃべりが引き出されることがある。	センター方式の情報シートを使って、利用者一人ひとりの思いや希望を把握しています。6名という少人数ならではの個別の取り組みが見られます。 ホーム開設10周年記念に向けて、利用者一人ひとりの紙芝居を作成しています。紙芝居を作成しながら、利用者の歴史を知り、その上で今があることを職員は理解できました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や、家族・友人などからも様々なエピソードを聞かせてもらうなど、その人の暮らし方や経歴などを把握できるよう努めている。センター方式も利用して情報の整理を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的に身体・生活状況チェックリストの実施をしている。 日々の様子は個人記録に残し、また必要なことは引きつぎによってスタッフが把握するように努めている。入浴や更衣時に、身体状況を確認するようにし、傷などを発見した時に場合によっては写真に残して経過観察するようにしている。また少しの動作でもできることはしてもらい能力の低下防止に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者が、毎月個人記録からのモニタリングを行い、計画作成担当者と意見交換をしながら、計画の作成や更新を行っている。	センター方式を採用して、利用者の細かな情報を把握し、介護計画に反映させています。毎月の会議では、各担当者がモニタリングを行い、全員で意見交換をしながら、介護計画の更新を行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個人記録、水分・排泄記録に日々の様子を記録し、毎日の引きつぎとケアノートなどを利用し、情報の共有に努めている。 スタッフミーティングでの意見交換や、家族からの意見も反映し、実際のケアに取り入れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の催しにスタッフや家族・協力者と参加することで、ホームの存在や入居者のことを知ってもらうきっかけ作りと考えている。今後も積極的にいろいろなサービスを取り入れ、今の入居者に合ったものを提供していきたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の高齢者とのふれあいを目的に開催している地域ふれあいサロンへの参加、自治会や地域の行事への参加のほか、美容院の利用などで入居者のより豊かな暮らしを支援している。地域との連携を大切に、その中で入居者がゆっくり生活できるようにしていきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問内科と月3回の訪問歯科の診療を実施し、時には担当医と家族や職員との意見交換の場を設定している。その他、入居者の状態に応じて個別の通院を行うようにしている。	入居前からかかりつけの医療機関へは、希望があれば受診可能です。現在は全利用者が、協力医による月2回の内科、月3回の歯科の診療を受けています。内科医には、「地域運営推進会議」にも出席してもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主には訪問診療の医師と連絡を取り合って支援している。 身体的な変化など常に健康維持管理を視点とした観察に努め、相談を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ホームでの生活状況などの情報を提供し、退院後も速やかに元の生活に戻るサポートに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会で提起して家族の中での意見集約を促したり、内科診療や通院をする際に家族も同席して意見交換するようにしている。また、スタッフ間で終末期のケアの在り方を研修している。	利用者が重度化した場合は、担当医師から現状の説明を受け、ホームでの生活がどの程度続けられるのか家族、担当医師、ホームの三者で話し合うことを重要事項説明書に明記し、入居時に説明しています。職員間では、重度化・終末期のケアについて研修を実施し、ケアのあり方を検討しています。	今後の重度化に向けて、緊急時の同意書の取り交わし等を検討し、利用者・家族・職員のさらなる安心に繋がる工夫が期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えたマニュアルを作成し、緊急時を想定した避難訓練、緊急連絡網の訓練、救急対応の講習などを定期的実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練に参加すると共に、ホーム独自で年2回、消防の指導により、通報・消火・避難訓練を実施し、自治会や消防団、推進会議のメンバーなどにも参加してもらうようにしている。2011年にはスプリンクラー設備、誘導灯、自動火災通報装置を設置した。	地域の住民も参加しての避難訓練を実施しています。近所で助け合うという地域の風土の強い応援に支えられています。災害マニュアルも作成されています。緊急連絡網は実際に訓練も行っています。スプリンクラー、誘導灯、自動火災通報装置も設置しました。非常災害時の食料も確保しています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の人ではなく、入居者一人一人であるという意識を持ち、入居者の思いを大切にしたいケアを心がけ、言葉遣いにも気をつけて思いやりを持って接するように心がけている。 常に理念に基づいたケア業務に就けるように研修を行い、自己研鑽に努めている。	利用者は人生の先輩であるという意識で、尊厳への配慮したケアを心掛けています。言葉遣いを始めとする接遇は、職員間で注意しあえる職場環境です。ミーティングでの確認や、研修での学びを日々のケアに活かしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に何を希望しているかを知るように努めている。時には、どうしますか？何がいいですか？と声掛けをしたり、食事や飲み物の嗜好、入浴の順番など日常の場面で本人の希望を聞き、選んでもらえる機会が持てるよう心がけている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者それぞれのペースを大切にし、その人らしい暮らしを過ごすことができるようサポートを心がけている。 業務全般の流れや他者との関係を維持しながらその人を思い第一にサポートする。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常生活の中で、整髪などの身だしなみに気をつけ、美容院の利用や、外出時の化粧などもさり気なくサポートできるよう努めている。 洗面所に行くなど、鏡を見る機会がもてるように促し、櫛を渡して身だしなみを整えてもらえるように声かけをしている。また同じような服にならないように着替えの際は工夫している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の会話の中から希望を引き出し、取り入れるようにしている。できる範囲で準備・食事作り、盛り付けや片付けに参加してもらうよう努め、入居者とスタッフ共に、食事をする楽しみを分かち合えるようにしている。献立や味付けを一緒に考えたり、雰囲気づくりも工夫するようにしている。	献立は、利用者の希望や好みを取り入れ、職員が作成しています。食材は生協で購入し、週2回は買出しに出かけます。食事の準備の音や匂いは家庭的な雰囲気をより高め、利用者は食事を楽しみに待っています。誕生日のお祝いに、「美味しいお肉が食べたい」とのリクエストで、利用者全員と職員で外食に行くこともあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常に健康維持を基本に、栄養バランスに注意し、便秘対策など食材の選択や調理の仕方に気配りをしている。水分量や排泄に関しては記録し、水分摂取が少ない入居者にはとろみ剤を利用してゼリー状にするなどの工夫をしている。食事では、食べやすいように大きさを、とろみを付けたり、また水分が少なくならないように種類をかえるなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを促し、清潔保持に努めている。特に就寝前には必ず行うようにしている。夜間の義歯預かり・つけ置き洗浄を行い清潔を保つようにしている。うがいなど簡単なことでもしてもらえよう時に声かけや誘導など行うようにしている。また、定期的な歯科受診により、口腔ケアを行ない、指導も受ける機会も持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄状況の把握に努め、それに合わせた声かけなどのサポートを行うようにしている。せかさずゆったりした雰囲気の中で支援するようにしている。紙パンツや尿取パッドがそれぞれの様子に合わせて使用できるようにしている。	全員トイレでの排泄を実施していません。誘導が必要な利用者には、一人ひとりの排泄状況を把握し、随時声かけて誘導しています。パンツもできる限り布パンツを使用しています。利用者のゆっくりしたペースに合わせて、丁寧に声かけを行い、トイレ介助を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身体状況の低下もあり、坐薬等の薬を使用することも出てきたが、食事の面からはもとより、身体を動かす、水分を確り摂る、睡眠をとる、といった生活リズムの管理に努め、出来る限りは薬に頼らない排便を促すようにしている。 表のベンチや公園など動ける範囲で誘導し、少しでも体を動かせるようにしている。また水分も種類を考えて飲みやすいようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日(隔日)、時間帯は決められてしまいが、その中で希望の順番や声かけのタイミング、入浴時間、湯温など意向に添い、羞恥心に配慮し無理なく快適に入浴できるようにサポートに努めている。楽しい雰囲気作りを心掛け、その前後での働きかけを重視、入浴しないまでも足浴など行っている。	利用者は、2日に1回入浴していません。入浴日以外でも、希望があれば入浴することが可能です。家族の協力を得て、入浴拒否の強い利用者に入浴してもらい続け、今では入浴を楽しみにされるようになった事例があります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寒さ暑さなどの居室の温度や、寝具にも気を配り、就寝につくタイミングには必要な会話を心がけている。 これまであまり昼寝は促していなかったが、ADLの低下も見られるようになり、本人の希望や状態によっては、いつでも自室で休息できるようサポートをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期訪問診療時、医師への報告、相談に努め、適切な服薬となるよう努めている。また、嚥下困難が見られるようになった入居者に対して、医師・薬剤師と相談して粉碎してもらうなどしたこともあった。 複数のスタッフの確認で薬の管理を行い、飲み終えるまで見守る。そしてその薬の効能などから服薬後の言動に注意を払っている。 勉強会を実施したり、確認できるようプリントしたものを用意したりとスタッフが常に確認できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の趣味や得意な事、楽しく感じられる事などを把握し、その日の気分や体調に応じて提供できるように心がけている。  歌は共通して楽しめるものになっており、スタッフ手書きの歌詞を見ながら歌う機会が増えた。またその歌から話題が広がることもある。単調にならないように、何かできないかと心掛けている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域ふれあいサロンに出かけたり、ホーム前の公園を散歩したり、時には外食が楽しめる機会を作っている。家族や友人との外食も希望により実施されている。様子を見て、外への声かけや誘導をしている。また外出の際は付き添い、安全に歩けるようにしている。	玄関前にベンチが置いてあり、利用者は自由に外に出てベンチに腰掛け、目の前の境内で遊ぶ子ども達の様子を眺めるのは、自然な光景です。月に2～3回ふれあいサロンに出かけ、地域の方たちと交流しています。天気の良い日は急遽、お昼ご飯を弁当に変更して表の公園で食べたり、その時の気分や天候で外出したりしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金を持っている入居者は現在はいないが、スタッフと一緒にお金の計算をしたりする機会を持つこともある。入居者と買い物など外出の際に、スタッフの代わりにお金の受け渡しなどしてもらえるようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族や友人に年賀状や手紙を書いたり、電話をしたり希望があればサポートしている。家族から電話があれば、入居者に替り本人が会話できるように、手紙など頂いたものは失くさないように、自室に置くなどしている。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでの過ごし方を考え、時には家具の種類や配置を換えて、清潔を保ちながら、装飾や音などにも変化があるようにしている。 リビングで過ごす時間が長い入居者がゆったり過ごせるよう個人の椅子を置いてみたり、テーブルの配置を変えるなど時には模様替えをして工夫している。	玄関には季節の花が植えられ、ベンチが置かれています。リビングに座っていると、食事の準備の音や匂いが流れ、家庭的な雰囲気です。居心地よく過ごしてもらうために、テーブルの配置を変えたり、ソファを置いたり工夫しています。加齢や認知症の進行に伴い、居住空間を見直し、手すりを7カ所増設しました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	無理に共同スペースに誘導せずその時の様子で居場所を見るようにしている。 廊下に籐椅子を置いたり、玄関口にベンチを置くなどして、入居者それぞれの好みの場所を把握するよう努め、ゆっくり過ごせる空間作りを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	限られたスペースでありながら安心して過ごせる空間として馴染みの家具を置いたり、思い出の写真や額・人形を飾るなど、家族・本人と相談しながらレイアウトしている。 他の入居者がスタッフと一緒に部屋を訪ねるなど、楽しめるような時間を持つこともある。	居室には、遺影や鏡台・テレビ・タンス・装飾品等利用者の使い慣れた馴染みの古いものや生活用品を持ち込み、その人らしい安心できる居場所になっています。より居心地よく過ごせる居室作りに、職員は検討を重ねています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所を明示する、個人の居室に表札をつけるなどで分かりやすくする他、入居者の状況に合わせ、手すりや柵を追加で設置するなど、安全な環境を作るよう心がけている。		